
笑いたくない日

きゃっつびー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑いたくない日

【Nコード】

N5646N

【作者名】

きゃっつびー

【あらすじ】

「都 みやこ ってさ、よく笑ってるよね」

私は、まわりの友人によくそう言われる。

「都 みやこ ってさ、よく笑ってるよね」

私は、まわりの友人によくそう言われる。

小学生の頃の通知表にも、「ニコニコ笑顔がまぶしい子」と書かれていた。

でも時々、私は笑いたくなくなることがある。

丁度今日みたいな日だ。

友達と話していると、それ程楽しくもないのに笑っている自分に気が付く。

自分の笑顔が疑わしい事に気付いて、とても嫌な気持ちになる。

楽しくもないのに笑いたくないな、なんて思っても、そんな気持ちとは裏腹に、私の顔には笑顔が張り付いたままだ。

それが、なんだかとても疲れる。

そうして、家に帰って一人になった時、そこにある孤独に暗い安らぎを感じる自分がいて、そんな自分がまた堪らなく嫌なのだった。

いつも笑っているなんて、感情表現が苦手な証拠だ。

泣きたい時には泣いて、怒りたい時には怒る。そして、楽しいなら笑えばいい。楽しくないなら笑わなければいい。

それが正常な人間の有り様だ。

理屈では分かっているけれど、そう出来ない自分がいる。どこか歪な自分自身を自覚する。

でも実のところ、私自身分らないことがある。

表面上で無意識に笑う私と、その内面に在る冷めきった私の意識。どっちが本当なのだろう。

もしかすれば、内面にいる私はただ気取っているだけで、冷めたフリをしているだけなのではないのか。

無意識に笑うことが出来るのなら、それが“楽しい”ということなのではないのか。

そんな事を考える。

考えながら目を閉じる。

人は良くも悪くも変わって往けるものだということを、私は知っているから。

“いつの日か、この自己嫌悪にも答えが見つかるといいな”

その思いだけは自覚できる本当のことで、僅かばかりの安心感と共に私は眠りに就いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5646n/>

笑いたくない日

2010年10月8日23時14分発行